

沙羅の樹文庫だより



八丈島点景(八条富士と八丈小島) 2013.01.27

いのちなき砂のかなしさよ
さらさらと 握れば指のあひだより落つ

頬につたふ なみだのごはず
一握野の砂を示しし 人を忘れず

石川啄木『一悪の砂』より

カブさん、ゴボウさん、考え込んでばかりいないで、
一歩まえに踏み出してみましようよ!

寒いですねえ～。この寒さ、いつまで続くのでしょ。
早く若草を踏みながらのどかに散歩したいです

文庫あれこれ◆寒いと心まで縮こまっていますね。3月も間近というのに。◆このところ、テレビを見たりして昔を思い出し、気まぐれ夫が急にちょい旅に誘ってくれ1月末に八丈島に行きました。風の強い日で波が逆巻いていました。八丈島には太古の昔、大津波でたったひとり助かった妊婦が、産んだ男の子との間に子を

生して島に人々が再び増えていったとか。そんな丹那婆伝説がありました。◆一昨日はホテルハワイアンズ(以前の常磐ハワイ)に行ってきました。◆久しぶりに常磐線スーパーひたちに乗って、下を向いてずっとおはなしを憶えていたのですが、ひょいと顔をあげたら、車窓から海が飛び込んできました。勝田あたりだったか。東海(村)を過ぎ、最寄り駅湯本に着くころ、何で夫が今回こんなところを、ということに気づきました。『フラガール』(映画)です。◆炭鉱あとは、駅をはさんで反対側にあるそうですが、今は閑静な街並みでした。彼女たちのフラダンスに元気をもらいました。◆そう言えば「大震災後の夏ごろから線量計を持参して(夫の赴任地は結構高く)、閑古鳥鳴く福島の温泉めぐりをしまし

たっけ。◆昨日くるとき見た伊豆の海、そして八丈、茨城～福島、今更ながら良きにつけに悪きにつけ海に囲まれた日本という風土を思いました。◆再び福島の子を迎えようとしている人々がいます。歌を聴いてもらって罹災した人々を応援しようという人々がいます。この地で♥ ◆私も、何かうまくいかない、どこかが調子悪いなど不平を言わず、楽しい文庫にしなければ。でもやっぱり、寒い寒い。は～るよ来い、は～やく来い!ですね。(西村)

★引き続き、
駐車について、
ご協力、お願い
いたします♥

湯本駅周辺に設置された銅像?
のひとつ(笛ふく男)と。

5月の催しのお知らせ

- ♥アートフェスティバル参加: 11日～20日開館
テーマでめぐる文庫まるごと展
文庫の本を面白いテーマ別にならべてお見せします
- ♥若葉のころのおはなし会
18日夕5:00～(大きい人向け)
19日午前10:30～11:45(子ども向け)
ゲスト: 立川おはなしボランティアの皆さん
そして、★100かいだてのいえの岩井敏雄さんご夫妻
- ♥本について語りましょう会
12日(日)午後3:10～5:30

7月の催し物のお知らせ

- ♥海の日のおはなし会: 会場は伊豆高原駅くすのきの下
7月14日(日)午後5:00～7:30
- ♥文庫開館記念子どものためのおはなし会
7月15日(月)午前10:30～11:45

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆4月は通常 20日(土)、21日(日)
 - ◆5月は変則 11日(土)～20日(月) long
 - ◆6月は通常 15日(土)、16日(日)
 - ◆7月は変則 13日(土)、14日(日)
- 開館記念日が海の日ですので、7月文庫の開館日はそれにあわせませす。(第2の土日です)
※15日午前は開館記念日おはなし会
- ◆8月は16日(金)～20日(火) long
 - ◆9月は通常

※文庫の時間: 土曜日は午後2時～5時、
日曜日は午前10時～午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜 11:00～13:00

連絡先 沙羅の樹文庫 電話: 0557-51-3737

3月に文庫に入った大人の本

フィクション

『還れぬ家』(佐伯一麦著 新潮社 2013)
『桜の首飾り』(千早茜著 実業之日本社 2013)
『こころ朗らかなれ、誰もみな』(アーネスト・ヘミングウェイ著 柴田元幸訳 スイッチ・パブリッシング 2012) ※request
『採葉使佐平次』(平谷美樹著 角川書店 2013)
『信長影絵』(津本陽著 文芸春秋 2013) 『おもかげ橋』(葉室鱗著 幻冬舎 2013) 『一路上・下』(浅田次郎著 中央公論新社 エッセイ

『無地のネクタイ』(丸谷オ一著 岩波書店 2013)
『コーマルタン界限』(山田稔著 編集工房ノア 2012) 『北園町九十三番地』『再会 女友達』(山田稔著 編集工房ノア) 『木漏れ日拾い』『草のそよぎ』(天野忠著 編集工房ノア) 『再読』(鶴見俊輔 編集工房ノア)

詩集

『夫婦の肖像』『私有地』(天野忠著 編集工房ノア)
『富士正晴詩集 風の童子の歌』(富士正晴著 編集工房ノア)

ノンフィクション

『アメリカは日本経済の復活を知っている』(浜田宏一著 講談社 2013) 『おどろきの中国』(橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司著 講談社現代新書 2013) 『原発のコスト』(大島堅一著 岩波新書 2011) ※以上3冊 request 『「グズグズ癖」とキッパリ手を切る200のアイデア』※request

文庫

『シティ・マラソング』(三浦しをん、あさのあつこ、近藤史恵著 文春文庫 2013)
『女ともだち』(角田光代、井上荒野ほか著 小学館文庫 2013) 『サラサーテの盤』(内田百閒著 ちくま文庫 2012、5刷)

『できそこない博物館』『エヌ氏の遊園地』(星新一著 新潮文庫 2013 増刷) 『マドンナ・ヴェルデ』(海堂尊著 新潮文庫 2013) 『遠藤周作短編名作選』(遠藤周作著 講談社文芸文庫 2012)
『炎の戦士クーフリン/黄金の騎士フィン・マックール』(ローズマリー・サトクリフ著 灰島かり、金原瑞人、久慈美貴訳 ちくま文庫 2013)
『三酔人経綸問答』(中江兆民著 岩波文庫 2012 増刷) 『9条どうでしょう』(内田樹ほか著 ちくま文庫 2012) ※上記2冊 request

2013年3月に読んだ本についての感想

2013年3月14日 By 森林浴

『愛と美の法則』美輪明宏著 (株)パルコ刊

2009年4月第1刷

昨年末のNHK紅白歌合戦に始めて出場した著者美輪明宏は「よいとまけの唄」で一大ブームを巻き起こした。たしかに、あれは、ずしんとくる歌唱だった。他の歌手がごく普通に綺麗に楽しく歌っているなかで、お腹の底から唸るように吐き出す歌には圧倒するような迫力があつた。

この人は本人も163ページで言っている様に強い人。性同一性障害に対する「偏見」は社会に強いがその中で堂々と同性愛者の存在を主張する。差別への反発で鍛えられたその信念で他の差別(国籍、生まれ=部落問題、貧富などによる)にも断固抗議、その信念と度胸は堂々たるもの。この本は自伝だが、この人の美意識の展示場でもあって、その見本の舞台・美術品など綺麗な写真が山ほど見られるアルバムでもある。

百年文庫5 『音』

幸田文「台所のおと」文字通り「音」を主役にして物語は進む。腕の良い料理人佐吉は病に臥し隣の台所で妻のあきが料理しているその音を聞いている。妻のあきは医者から秘かに佐吉は重い胃病でもう永くないと言われている。佐吉は床のなかで過去に結婚し別れた2人の女を思い出している。下町らしい庶民の生活・人生がきめ細かい筆致で描かれ、しみじみした情感に溢れた佳作。

川口松太郎「深川の鈴」

作者の実体験らしい。夫を失って2人の子供を育てながら東京の深川ですし屋を開いている気丈で情の深い女と、文学で身を立てようとしている男が結ばれるが、男は芝居の脚本の懸賞に入賞して結局2人は別れを迎えることになる。鈴の音は、二階で男とその女が抱き合っている最中に一階の幼児が階段を登ってきて怪我をするかもしれないので、子供の動きが分かるようにと女が自分の手首と子供の体を結んだ紐に付けた鈴が鳴る音。

高浜虚子「斑鳩物語」

まったく無駄のない、正確で、均整の取れた見事な文章に感心した。虚子は正岡子規の提唱した「写生」という俳句理論を継承・発展させ、それを散文にも適用したといわれるが、さすがに見事な出来だ。泊まった奈良の旅館の隣家から昼間会ったコケティッシュな若い女が操る機織の篋の音が夜の静寂に流れ来て止まらない。

沙羅の樹文庫だより



ターシャ・チューダーの庭

春になると、庭づくりに勤しむ方も多と思います。辛いことも哀しいことも自然と向きあえば切り抜けられる！昔祖母が言っていました。うつうつとしていても、庭いじりやお針仕事に打ち込むと、いつしか心が晴れるよ、と。上を向いて深呼吸しましょう。春は間近で～。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

3.11を決してわすれないで・・・

いのちなき 砂のかなしさよ
さらさらと 握れば指の あひだより落つ

頬につたふ なみだのごはず (ぬぐわず)
一握の砂を示しし 人を忘れず

石川啄木『一悪の砂』より

森林浴さんの本の紹介&文庫こぼれ話、

5月の催しのお知らせ

- ♥アートフェスティバル参加：11日～20日開館
テーマでめぐる文庫まるごと展
文庫の本を面白いテーマ別にならべてお見せします
- ♥若葉のころのおはなし会
18日夕5:00～ (大きい人向け)
19日午前10:30～11:45(子ども向け)
ゲスト：立川おはなしボランティアの皆さん &
★100かいだてのいえの岩井敏雄さんご夫妻
- ♥本について語りましょう会
12日(日)午後3:10～5:30

7月の催し物のお知らせ

- ♥海の日のおはなし会 会場は伊豆高原駅大楠の下
7月14日(日)午後5:00～7:30
- ♥文庫開館記念子どものためのおはなし会
7月15日(月)午前10:30～11:45

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆3月は通常 16日(土)、17日(日)
 - ◆4月は通常 20日(土)、21日(日)
 - ◆5月は変則 11日(土)～20日(月) long
 - ◆6月は通常 15日(土)、16日(日)
 - ◆7月は変則 13日(土)、14日(日)
- 開館記念日が海の日ですので、7月文庫の開館日はそれにあわせます。(第2の土日です)
※15日午前は開館記念日おはなし会
◆8月は16日(金)～20日(火) long
- ※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、
日曜日は午前10時～午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜11:00～13:00

沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

文庫あれこれ◆四谷で、今作っている絵本リストの打ち合わせがあり、珍しく東京駅から新幹線で熱海まで。来る前いろいろ忙しく食料を買い込む暇がなかったので、ちょうど東京駅で駅弁祭りをやっていたので、当座の食事を駅弁ですませることにして、いくつか買い込みました。信濃の国・食浪漫、赤澤牛・焼肉重松川弁当、津軽の笹寿司、深川弁当…。でも駅弁は列車の中で食べるが一番。◆庭の河津桜がきれいです。もうすぐ桜並木の桜のアーチが見られるでしょうね。



うやく春めいてきました(でも庫でまだ暖房をつけています)。アメリカにいる娘が例年通り、一スターの卵ならぬチョコレート菓子を文庫のみんなに送ってスト教が日常の生活と直結し

ない私たちには、なじみのないイースター(キリストが復活した日)は「春分後の最初の満月から数えて最初の日曜日」。具体的には、3月22日から4月25日の間。今年は3月31日(27日が満月なので)です。アメリカで幼少年期を過ごした子どもたちは、ハロウィンとイースターをいまだに楽しんでいます。◆福島から来る子どもさんたちにも、お裾分けしたいと思います。復興を願って。◆文庫便り今月の冒頭の啄木の〈一握の砂〉ですが、3.11で陸前高田にあった歌碑が流されてしまったそうです。今夏、改めてあたらしく作られるとか。啄木が初めて海を見た三陸海岸はチリ大津波の4年後だったとか。◆みなさんは花粉症、大丈夫ですか？私は目鼻喉をやられています。ぜったい効くと聞いてたブロック、夫が注文して送ってくれたのですが、私にはまだ効果なし。◆新聞に「8坪図書館の励まし」というコラムが。100冊の本を購入、被災地(宮城県山元町)に届けたのが始まりで、人の集う場を作ることが大切と気づき私設図書館を作った、それがきっかけで、そこから人々は人の集まる街づくりへと。彼自身もここを元気にすれば過疎化が始まっているそうです。この沙羅の樹文庫も、皆さんが元氣

を与えあえる場所でありたいですね。
(西村)

★引き続き、駐車について、ご協力、お願いいたします♥

フィクション

『**選れぬ家**』(佐伯一麦著 新潮社 2013)
 『**桜の首飾り**』(千早茜著 実業之日本社 2013)
 『**こころ朗らなれ、誰もみな**』(アーネスト・ヘミングウェイ著 柴田元幸訳 スイッチ・パブリッシング 2012) ※request
 『**採薬使佐平次**』(平谷美樹著 角川書店 2013)
 『**信長影絵**』(津本陽著 文芸春秋 2013) 『**おもかげ橋**』(葉室麟著 幻冬舎 2013) 『**一路 上・下**』(浅田次郎著 中央公論新社)

エッセイ

『**無地のネクタイ**』(丸谷才一著 岩波書店 2013)
 『**コーマルタン界隈**』(山田稔著 編集工房ノア 2012)
 『**北園町九十三番地**』『**再会 女友達**』(山田稔著 編集工房ノア) 『**木漏れ日拾い**』『**草のそよぎ**』(天野忠著 編集工房ノア) 『**再読**』(鶴見俊輔著 編集工房ノア) ★心やさしい気持ちにしてくれるふしぎな本たち。

詩集

『**夫婦の肖像**』『**私有地**』(天野忠著 編集工房ノア)
 『**富士正晴詩集 風の童子の歌**』(富士正晴著 編集工房ノア)

ノンフィクション

『**アメリカは日本経済の復活を知っている**』(浜田宏一著 講談社 2013) 『**おどろきの中国**』(橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司著 講談社現代新書 2013) 『**原発のコスト**』(大島堅一著 岩波新書 2011) ※以上3冊 request 『**「グズグズ癖」とキッパリ手を切る200のアイデア**』

文庫

『**シティ・マラソンスズ**』(三浦しをん、あさのあつこ、近藤史恵著 文春文庫 2013) 『**女ともだち**』(角田光代、井上荒野ほか著 小学館文庫 2013) 『**サラ**

サーテの盤』(内田百閒著 ちくま文庫 2012、5刷)
 『**できそこない博物館**』『**エヌ氏の遊園地**』(星新一著 新潮文庫 2013 増刷) 『**マドンナ・ヴェルデ**』(海堂尊著 新潮文庫 2013) 『**遠藤周作短編名作選**』(遠藤周作著 講談社文芸文庫 2012)
 『**炎の戦士クーフリン/黄金の騎士フィン・マックール**』(ローズマリー・サトクリフ著 灰島かり、金原瑞人、久慈美貴訳 ちくま文庫 2013)
 『**三酔人経綸問答**』(中江兆民著 岩波文庫 2012 増刷)
 『**9条どうでしょう**』(内田樹ほか著 ちくま文庫 2012) ※上記2冊 request
 『**纂奪**』『**秘闘**』『**隠密**』『**刃傷**』『**召抱**』『**墨痕**』『**天下**』(奥祐筆秘帳シリーズ5から11巻)(上田秀人著 講談社文庫) ※シリーズ request

寄贈本

『**桜ほうさら**』(宮部みゆき著 PHP 研究所 2013)
 『**彼女について**』(よしもとばなな著 文春文庫)
 『**うらやましい人**』(日本エッセイスト・クラブ編 文春文庫) 『**他謔の空似**』(米原万里著 光文社文庫)
 『**実録・警視庁公安警部**』(泉修三著 新潮文庫) 『**震災日録**』(森まゆみ著 岩波新書) 『**なつかしい時間**』(長田弘著 岩波新書) 以上、Nさんより

3月に文庫に入った子どもの本 寄贈本

かみしばい

『**みつけたみつけた あめのおと**』 『**りゅうぐうのくろねこ**』
 『**どんぐりぼとん**』 『**こてんぐちゃん**』 『**こねこのハンカチ**』
 『**かけっこどんどん**』(童心社)

えほん

『**そののりものえほん**』(童心社)※幼児
 『**おれはワニだぜ**』(文研出版) 『**おたすけこびととハムスター**』(徳間書店) 『**だるまのしゅぎょう**』(偕成社)
 『**サンタさんへの手紙**』(ほるぷ出版) 『**ぎょうれつ**』(偕成社)
 『**ふうとはなときじ**』(童心社) 『**わがままくまさん**』(そうえん社)

『**こりやたいへん、あまがえる先生ミドリ池きゆうしゅつ大作戦**』
 『**あまがえる先生みつけてたべよう いちご教室**』(ポプラ社)
 『**こんな家にすんでいたら**』(偕成社)
 『**わたしもがっこうにいきたいな**』(リンドフレーン作 徳間書店)

かがく(えほん・ずかん・よみもの)

『**あさがお**』 『**春をさがそう**』 『**秋をみつけた**』
 『**冬をたのしむ**』
 『**こん虫のおやこ**』 『**クロテン**』
 『**竹細工**』 『**すてきなひらがな**』 『**折り紙**』 『**影絵**』
 『**小惑星探査機(はやぶさ)大図鑑**』 『**迷路アドベンチャー1**』
 『**世界の国旗クイズ図鑑**』
 『**なぜカツラは大きくなったのか?**』 『**トリックアート おぼけやしき**』
 『**トリックアイ めのぼうけん絵本**』 『**お化け大図鑑**』
 『**恐竜研究室1**』
 『**ニュース年鑑2012**』 『**日本と世界の歴史対比図鑑**』
 『**日本の川 いしかりがわ**』 『**北京**』
 『**アンドリュウの一日**』
 『**死の川とたたかう**』 『**新島八重**』 『**犬といっしょに**』

よみもの

『**ともだちはわに**』(むらかみしいこ作 WAVE出版 2012)※
 『**カモのきょうだい クリとゴマ**』(なががわちひろ作 アリス館)
 『**だれかさのかぼん**』(森山京作 ポプラ社) 『**かいぞくゾイカウ**』
 『**ねずみのオスカーとはるのおくりもの**』(リアン・ホーバン作 のら書店)
 『**名犬ポニーはマルチーズ**』(ベル・ムーニー作 徳間書店)
 『**心の森**』(小手毬るい作 金の星社) 『**ヒロシマめぐりくる夏**』
 (那須正幹作 『**ピアスの星**』(赤羽じゅん子作 くもん出版)
 『**夜の小学校で**』(岡田淳作 偕成社) 『**あの時間にクソノキの上で**』
 (中尾三十里作 文研出版) 『**むこうがわ行きの切符**』(小浜ユリ作 ポプラ社)
 『**ときくもち**』(染谷果子作 小峰書店) 『**ぼくたちのサマー**』
 (本田有明作 PHP) 『**バッドボーイ**』(ウォルター・マイケルズ作 小峰書店) 『**グレッグのダメ日記**』
 (ジェフ・キニー作 ポプラ社)
 詩 『**サトウハチロー**』(あすなろ書房) 以上広瀬恒子さん寄贈
 『**なんのにおい**』 『**へんしんどうぶつえん**』(絵本塾出版寄贈)

沙羅の樹文庫 こぼればなし 2月の文庫から 中西景子

土曜日は 30 人、日曜日には 50 人の利用者の方々が来てくださって、大賑わいでした。赤ちゃん、小さいお子さんがどんどん大きくなっていくのを身近にみられるのは楽しみです。

朝の読み聞かせに「としよかんねずみ」を読みました。今度小学生になるけんたくんがくぼくが作った小さな絵本を2冊、見せてくれました。絵と字が入ってとじてある、すてきな恐竜のおはなしでした。すごいタイミングにスタッフ一同びっくりでした！！

小さなくちゃんが、おうちでママと「沙羅の樹文庫ごっこをするのよ」とママが報告してくれました。本の返却の時には、まだ字が読めないのに、本の登録ナンバーの方を見てから、ひっくり返してちゃんと書名を言うのです。字は読めないのですよ。何度も読んでもらって覚えてしまっているの。びっくり！！

「来月 100 冊のお祝いね」というOさん。大人の方ですが、子どもさんの本を今はたくさん借りていけます。7, 8 冊絵本を借りると、中の 3 冊くらいは繰り返し繰り返し読まされるそうです。今回もこれはもう一度という 1 冊があって、それは「くらいくらい」という楽しい絵本でした。電気をつけると、おさるとか出てくるのです。

子どもの時以来本なんか読んでこなかったYさん。沙羅の樹文庫の建物に興味を持って入ってきてくださって、会員になり、少しずつ読み始め、すっかり読書の楽しみにはまってしまったと。毎回 6, 7 冊借りていかれるようになりました。最初のうち努力が必要だったようですが、うれしいおはなしです。新聞や本や人の紹介で選ばれると言ってらっしゃいました。これは大人のおはなし。

今日から試みに「大きな人たちへの読み聞かせ」始めました。たかひろくん、みほちゃん、

ゆりなちゃん、ゆいちくん、いくねちゃん、それに小さなひろえちゃんがお姉ちゃんに寄り添って聞きました。ゆりなちゃんは「楽しかったよ」と言ってましたが、さて来週は？

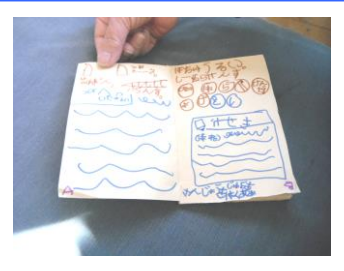
少し前に文庫に入った「百年文庫」ご存知でしょうか。セットでしか手に入らない、お高い本ですが、何人かファンがいらっしゃいます。お友だちのOさんは、必ず2, 3冊借りていけます。新書サイズの本で、わりに字が大きく、出かける時などに持ち歩くのにちょうどいい。1冊の中に3篇選ばれていて、タイトルごとに選び抜かれた3篇ははずれが少ない。などの理由で、「私のお気に入り」と言っています。「森林浴」さんも、よく読まれていらっしゃいますね。皆さまぜひ1冊読んでみられてはいかが？

沙羅の樹文庫—ファンの方から沢山ジュースをいただきました。会員の方ではないのですが、子どもさんが集まっているらしいので、自分の所では不要のものを使ってくださいとのことでした。これからの季節にうれしいプレゼントです。

新刊を借りたら、なるべく次の月にお返しください。予約して待っている人がいます。



絵本作家・けんたくん
自作の本を手に



『愛と美の法則』美輪明宏著 株)パ
ルコ刊 2009年4月第1刷

昨年末のNHK紅白歌合戦に始めて出場した著者美輪明宏は「よいとまけの唄」で一大ブームを巻き起こした。たしかに、あれは、ずしんとくる歌唱だった。他の歌手がごく普通に綺麗に楽しく歌っているなかで、お腹の底から唸るように吐き出す歌には圧倒するような迫力があつた。

この人は本人も163ページで言っている様に強い人。性同一性障害に対する「偏見」は社会に強いがその中で堂々と同性愛者の存在を主張する。差別への反発で鍛えられたその信念で他の差別（国籍、生まれ＝部落問題、貧富などによる）にも断固抗議、その信念と度胸は堂々たるもの。この本は自伝だが、この人の美意識の展示場でもあって、その見本の舞台・美術品など綺麗な写真が山ほど見られるアルバムでもある。★銀巴里のころが…。

★

百年文庫5 『音』

幸田文「台所のおと」

文字通り「音」を主役にして物語は進む。腕の良い料理人佐吉は病に臥し隣の台所で妻のあきが料理しているその音^ナを聞いている。妻のあきは医者から秘かに佐吉は重い胃病でもう永くないと言われている。佐吉は床のなかで過去に結婚し別れた2人の女を思い出している。下町らしい庶民の生活・人生がきめ細かい筆致で描かれ、しみじみした情感に溢れた佳作。

✧いつか、朗読か語ってみたい✧

川口松太郎「深川の鈴」

作者の実体験らしい。夫を失って2人の子供を育てながら東京の深川ですし屋を開いている気丈で情の深い女と、文学で身を立てようとしている男が結ばれるが、男は芝居の脚本の懸賞に入

賞して結局2人は別れを迎えることになる。鈴の音は、二階で男とその女が抱き合っている最中に一階の幼児が階段を登ってきて怪我をするかもしれないので、子供の動きが分かるようにと女が自分の手首と子供の体を結んだ紐に付けた鈴が鳴る音。

★川口さんのお話は、昔、新派の舞台(先代の水谷八重子、花柳章太郎)でよく観ました。★

高浜虚子「斑鳩物語」

まったく無駄のない、正確で、均整の取れた見事な文章に感心した。虚子は正岡子規の提唱した「写生」という俳句理論を継承・発展させ、それを散文にも適用したといわれるが、さすがに見事な出来だ。泊まった奈良の旅館の隣家から昼間会ったコケティッシュな若い女が操る機織の箴の音^ナが夜の静寂に流れ来て止まらない。

♪ぜひ読んでみたいですね!♪